

作成日：2013年11月18日
改訂日：2016年4月11日

安全データシート（SDS）

1. 化学物質等及び会社情報

1.1 化学物質等の名称

製品名：ターミダンシート

1.2 会社情報

会社名 エフエムシー・ケミカルズ株式会社
住所 〒107-0061 東京都港区青山一丁目2番3号 青山ビル9階
電話番号 03-3402-3721
Fax 番号 03-3402-3700

1.3 推奨用途 白蟻防除

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS 分類結果

物理化学的危険性	分類できない
健康に関する有害性	該当しない
環境に関する有害性	該当しない

2.2 GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル：該当なし

注意喚起語：該当なし

注意書き

[安全対策]：皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らぬよう適切な保護具を着用すること。取扱後は手・顔などをよく洗い、休憩所などに手袋などの汚染保護具を持ち込まないこと。本製品の仕様時に飲食/喫煙をしないこと。

[応急処置]：気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受けること。誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。露出物を回収すること。

[貯蔵]：冷暗所、乾燥した場所に保管し、転倒、転落しないように注意すること。

[廃棄]：製品及び包装等は関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。

2.3 重要危険有害性 該当なし

3. 組成及び成分情報

3.1 単一物質・混合物の区別

3.2 成分情報

化学品または一般名	化学式	CAS 番号	官報公示整理番号		含有量
			化審法	安衛法	
ビフェントリン	$C_{23}H_{22}ClF_3O_2$	82657-04-3	(4)-1,701	7-(3)-277	0.05%
エチレン・酢酸ビニル共重合体		24937-78-8	(6)-6		>96.0%
酸化チタン	TiO_2	13463-67-7	(1)-558		<1.5%
炭酸カルシウム	$CaCO_3$	471-34-1	1-122		<2.5%

3.3 GHS 分類に寄与する危険有害成分

ビフェントリン

4. 応急処置

4.1 暴露経路による応急処置

- 目に入った場合： 直ちに大量の流水で 15 分以上、まぶたの裏まで完全に洗うこと。出来るだけ早く医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合： 大量の水及び石鹸又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とすこと。外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受けること。
- 飲み込んだ場合： 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。

4.2 応急処置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切は皮膚の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

粉末消火剤、泡消火剤、水噴霧、二酸化炭素を使用する。

5.2 使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接棒状注水を避ける。

5.3 特有の危険有害性

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生する恐れがある。
一酸化炭素、二酸化炭素、塩化水素、フッ化水素を生成する恐れがある。

5.4 特有の消火方法

消火活動は風上から行う。
火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

5.5 消火を行う者の保護

消火ザ行の際は、自給式呼吸維持装置、適切な眼・皮膚の保護具を着用する。

6. 漏出時の処置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時処置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護処置」の項を参照）を着用し、皮膚への接触を避ける。

6.2 環境に関する注意事項

周辺環境（特に水生環境）に影響を及ぼす恐れがあるため、製品の環境中への流出を避ける。

6.3 回収、中和、封じ込め、及び浄化の方法

漏出物はビニール袋や段ボールなどに回収する。

漏出場所は、回収後水を用いて完全に洗浄する。

6.4 二次災害の防止策

取扱いや保管場所の近傍での飲食禁止。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

技術的対策： 「8. 暴露防止及び保護処置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱い注意事項： 取扱い後は良く手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

7.2 保管

技術的対策： 保管場所には必要な照明及び換気の設備を設ける。

保管条件： 冷暗所、乾燥した場所で保管する。

包装材料： 元の包装または同等のものを使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

8.1 管理濃度・作業環境評価基準

設定されていない

8.2 許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

設定されていない

8.3 保護具

呼吸器の保護具： 必要に応じて保護マスクを着用する。

手の保護具： 保護手袋を着用する

皮膚及び身体の保護具： 作業用の長袖上衣、長ズボン、帽子を着用する。

8.4 設備対策

密閉度の高い取扱い場所では換気装置を使用する。

8.5 衛生対策

取扱い後良く手を洗うこと。

取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

作業終了後は必ずシャワーを浴びること。

9. 物理的及び化学的性質

情報なし

10. 安定性及び反応性

10.1 安定性

通常の実験条件下では安定である。

11. 有害性情報

11.1 製品の有害性情報

情報なし

11.2 成分の有害性情報

ビフェントリン

急性毒性

ラット（経口） LD₅₀ 47mg/kg

ラット（経皮） LD₅₀ 790mg/kg

ラット（吸入；粉じん） LC₅₀ 0.8mg/L/4時間

特定標的臓器・全身毒性

（単回ばく露）：

ラットでの試験において、音に対する反射亢進、自発運動量の変動、横臥、間代性痙攣、流涎が見られたとの報告がある。

特定標的臓器・全身毒性

（反復ばく露）：

イヌでの実験において、振せんとの報告がある。

12. 環境影響情報

12.1 製品の有害性情報

情報なし

12.2 成分の有害性情報

ビフェントリン

生態毒性：

藻類（セレナストラム） 96-h EbC₅₀=516mg/L

甲殻類（オオミジンコ） 48-h EC₅₀=0.00011mg/L

魚類（ニジマス） 96-h LC₅₀=0.00015 mg/L

魚類（ブルーギル） 96-h LC₅₀=0.00035 mg/L

生分解性：

急速に分解しないと推定される

蓄積性：

生物蓄積性があると推定される（BCF=540～1330）

分解性：

土壌中での分解半減期は 65～125 日

移行性：

土壌中での移行性は低く、地下水への影響は低い。

13. 廃棄上の注意

13.1 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理場者、または地方公共団体が廃棄処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

13.2 容器及び包装

包装は、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送中の注意

14.1 規制

該当せず

14.2 特別の安全対策：輸送に際しては直射日光を避け、包装の破損の無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法：	名称等を通知すべき危険物及び有害物 酸化チタン（含有量 1.5%未満）
----------	--

16. その他の情報

参考文献：	エフエムシーケミカル株式会社資料 化学物質総合情報提供システム（CHPIP）GHS 分類結果 (http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html) ビフェントリン農薬抄録
-------	---

【注意】本SDSは、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づき作成していますが、必ずしも十分でない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものであるため、特別な取り扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。